

2022 年度事業計画（幼稚園）

<p>1. 基本方針</p> <p>広島女学院ゲーンズ幼稚園は、次のことを目標とする。</p> <p>○子ども一人ひとりが、神様から愛されたかけがえのない存在であることを知り、受け入れられていることを感じる。 ○身近な自然や環境との関わりを通して、健康な心身を育み、豊かな情操を培う。</p> <p>○子どもが、お互いの個性の違いを認め合い、共に育ちあう。</p> <p>この目標を達成するために 2018－2022 年度の 5 か年で、（1）キリスト教保育の実践、（2）持続可能な幼稚園教育活動及び業務の計画、（3）開園 130 周年記念事業に取り組む。</p> <p>その最終年次、2022 年度は ①キリスト教保育の実践 ②子ども・子育て支援事業の充実 ③職務の合理化・省力化の継続 ④130 周年記念事業最終年次 に取り組むこととする。</p>			
<p>2. 具体的アクション</p>			
第 2 次中期計画（行動計画）	2022 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）
<p>（1）キリスト教保育の実践</p> <p>ア 全教職員による建学の精神の理解</p> <p>イ 新任研修計画と保育内容データベース活用</p>	<p>（1）キリスト教保育についての実践的共通理解</p> <p>①キリスト教的孩子も観、保育姿勢の確立</p> <p>② 園内研修の充実</p> <p>③安心、安全な保育の推進</p>	<p>（1）キリスト教保育についての実践的共通理解</p> <p>①2021-2022 年度は、1 名の新任保育者を迎え、9 クラス担任 9 名のうち、1 年目 1 名、3 年目 3 名、4 年目 3 名、10 年以上 2 名という、若手保育者中心の体制であり、若い世代が本園のキリスト教保育の実践を担うことを踏まえ、保育者自身が神様に愛されている安心感を抱くことができることに重点を置きながら、子どもたちと共にイエス様と出会うことができるようになる。園児を受け入れる際の、キリスト教的孩子も観、共感的に寄り添う姿勢、肯定的な言葉添えを基本形としながら、基本的な生活習慣の獲得や、子ども同士の衝突や葛藤を乗り越えて行けるように支えることができるようになる。</p> <p>②保育者研修計画―第 5 段階</p> <p>「保育の宝箱」の取り組みを継続し、若手保育者の「引き出し」を充実させるとともに、様々な保育場面に適した子どもへの援助、言葉添え、保育コンテンツの提供、環境構成ができるようになる。</p> <p>③伸び伸びと幼児が遊び、日々のヒヤリハット、小さな事故や怪我を経験しながら、大きな事故、怪我をしない育ちを支えていく。</p>	<p>（1）キリスト教保育についての実践的共通理解</p> <p>①園内研修の充実 可視化、データベース化の取り組みを継続していく。指導が必要な場面において、否定的な言葉ではなく、幼児の心情・意欲・態度を育む、好ましい「言葉の引き出し」を 100 リストアップする。</p> <p>②「保育の宝箱」の引き出しを、200 コンテンツ（2022 年 3 月時点で 103）とすることを目指す。量的な面だけでなく、質的な充実となるよう、ねらいやその取扱いについてもアーカイブする。</p> <p>③事故怪我報告数／ヒヤリハット報告数＜1</p>

<p>(2) 持続可能な幼稚園の実現 ア 子育て支援諸活動と幼大連携の連動プロジェクトの推進</p>	<p>(2) 安定した園運営とこれからの構想 ア 園運営における管理体制の強化 ○法人事務局との連携強化による内部管理体制の強化 ○働き方改革の推進 ○内部通報制度の周知徹底 イ 施設設備計画</p>	<p>(2) 安定した園運営とこれからの構想 ○法人事務局・内部監査室との連携強化 ・定期的な報告、連絡、相談の実施 ・事務長の配置 ○働き方改革の推進 ・業務の合理化、可視化 ・勤務時間短縮と休憩時間の確保 ・園行事の見直し等による保育カリキュラムの再編成 ○内部通報制度の定着化 イ 施設設備計画 1) 空調の段階的更新 第5期 年少保育室、保護者室 2) 遊戯室アスレティック遊具の入れ替え</p>	<p>(2) 安定した園運営とこれからの構想 ・事務長の配置により事務機能の強化を図るとともに法人事務局と定期的な情報共有を実施 ・労働時間を前年度より2時間/週、短縮を図る ・指導案、保育記録の電子化 ・「おたより」のペーパーレス化 ・人材育成のための研修計画と保育業務のマニュアル整備 ・定期的にコンプライアンスに関する勉強会等を実施 イ 2部屋の空調(2台)を更新することで、残室は年少保育室1台、2階役員室1台、ホール4台となる。遊戯室アスレティック遊具は、1セット当たり、現行のものと比較して10kg以上の軽量化を図ったものであり、搬入出の時間短縮も実現できる。</p>
<p>イ 施設・設備計画</p>	<p>(3) 幼稚園開園130周年記念出版事業</p>	<p>(3) 幼稚園開園130周年記念出版事業 (2020、21、22年度) ・『水辺の物語』2020年度刊行 ・『つながりというたからもの一食と園芸の活動を通して』2021年度刊行 ・『ケヤキの物語—根を育む(仮)』</p>	<p>(3) 幼稚園開園130周年記念冊子 夏までに編集、10月刊行を目指す。</p>
<p>(3) 開園130周年記念事業の推進</p>			